

2024年4月作成（第2版）

貯法 室温保存、密封容器

動物用医薬品

指定

アミノグリコシド系抗生物質製剤

要指示医薬品 指定医薬品 使用基準

承認指令書番号 26動薬第3197号

販売開始 1965年6月

ジヒドロストレプトマイシン注射液「タムラ」

(硫酸ジヒドロストレプトマイシン注射液)

【本質の説明又は製造方法】

本剤は、アミノグリコシド系抗生物質である硫酸ジヒドロストレプトマイシンを有効成分とする注射用抗生物質製剤です。

本剤は、無菌操作法によって製した力価の安定な硫酸ジヒドロストレプトマイシンの注射液です。

【成分及び分量】

本品 1 mL 中

有効成分	含量
硫酸ジヒドロストレプトマイシン	250 mg (力価)

【効能又は効果】

有効菌種

パスツレラ、ヘモフィルス・パラガリナルム、レプトスピラ

本剤感性の次の菌種：

ブドウ球菌、コリネバクテリウム、大腸菌、サルモネラ、クレブシエラ、

プロテウス

適応症

牛：レプトスピラ病、乳房炎、術後感染症の予防

馬：細菌性関節炎

豚：レプトスピラ病、肺炎

鶏：伝染性コリーザ

犬：レプトスピラ病、術後感染症の予防

【用法及び用量】

1日1回体重1 kg 当たり、ジヒドロストレプトマイシンとして下記の量を筋肉内に注射する。

牛：5～25 mg (力価)

ただし、搾乳牛（食用に供するために出荷する乳を泌乳している牛をいう。）の場合は5～10 mg (力価)

馬：5～25 mg (力価)

豚：20～100 mg (力価)

鶏（産卵鶏を除く。）：25～100 mg (力価)

犬：10～50 mg (力価)

【使用上の注意】

(基本的事項)

1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- 本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- 本剤は、効能・効果において定められた適応症の治療にのみ使用すること。
- 本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。
- 本剤の使用に当たっては、治療に必要な最小限の期間の投与に止めることとし、過剰にわたる連続投与は行わないこと。
- 本剤は、「使用基準」の定めるところにより使用すること。

注意：本剤は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、使用対象動物（牛、馬、豚、鶏（産卵鶏を除く。））について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守してください。

- 牛：食用に供するために殺する前90日間
又は食用に供するために搾乳する前72時間
- 馬：食用に供するために殺する前60日間
- 豚：食用に供するために殺する前90日間
- 鶏（産卵鶏を除く。）：
食用に供するために殺する前29日間

(取扱い及び廃棄のための注意)

- 小児の手の届かないところに保管すること。
- アルコール消毒した注射器を使用すると不溶性沈殿を生じることがある。
- 注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと（ガス滅菌によるものを除く。）。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。
- 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- 本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- 使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- 誤って注射された者は、直ちに医師の診察を受けること。

(対象動物に関する注意)

- 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(専門的事項)

(重要な基本的注意)

- 本剤は、静脈内注射を避けること。
- 連続して使用する場合には注射部位を変えること。
- 注射針を刺入したとき疼痛を訴えたり、血液の逆流をみた場合には直ちに針を抜き、部位を変えて注射すること。

(相互作用)

本剤の有効成分であるジヒドロストレプトマイシンはアミノグリコシド系抗生物質であり、下記の薬剤との併用に注意すること。

- 本剤は、クラーレ様作用（神経筋接合部遮断作用）による呼吸抑制が見られることがあるので麻酔剤、筋弛緩剤との併用は慎重に行うこと。呼吸抑制があらわれた場合には、必要に応じ、カルシウム製剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- デキストリン、アルギン酸ナトリウム等腎障害を起こす恐れのある血液代用剤との併用は腎毒性を増強することがあるので、避けることが望ましい。

(副作用)

- 本剤は、犬に投与すると、まれに嘔吐を起こすことがある。

【包装】

20 mL × 10バイアル

100 mL × 1バイアル

【製品情報お問い合わせ先】

共立製薬株式会社 学術

〒102-0073

東京都千代田区九段北一丁目11番5号

TEL：03-3264-7559

発売元



共立製薬株式会社

東京都千代田区九段南 1-6-5

製造販売元



リケンバツツファーマ株式会社

埼玉県入間郡越生町成瀬829-6

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所（<https://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>）にも報告をお願いします。